

静岡大学卒業生及び在校生有志による、静岡大学の分割案に対する反対声明

2018年6月28日、静岡大学と浜松医科大学の学長が記者会見し、両大学を法人統合（1法人2大学体制）に向けた協議を始めることが報道されました。法人統合については、経営・運営上メリットがあることは想像に難くありません。ですが、統合に伴い、静岡キャンパスと浜松キャンパスを分断し、浜松キャンパスは浜松医科大学と統合する形での2大学体制についての明確な利点は発表されておらず、推し量ることもできません。

静岡大学の諸先生方からも反対や異論の声、反対声明があがっていると、報道を通して存じております。それにも関わらず、統合の実現を目指す石井学長は「客観的な認識に基づかない表面的『イメージ』のみに基づく反対論」と明確な理由を示されずに、退けられました。

私達は多くのことを静岡大学から学び、在籍していたことに誇りを持っております。籍を置いていたのは静岡、浜松いずれかのキャンパスですが、静岡県の全地域から育てて頂いたと思っています。小規模大学になることで、優秀な教職員の確保が難しくなること、地元や企業からの印象が現在よりも弱まることは容易に想像できます。また、大学の東西分断によって、自分たちが卒業した静岡大学の名前が消失してしまうのは、簡単に受け入れられるものではありません。

両大学の統合について、卒業生や在校生の誇りを踏みにじる、現在の静岡大学を静岡、浜松の地域で分断する大学構想を進めることに対し反対の意思を表します。

今後も2つの拠点を置く総合大学として、静岡県や日本に貢献し、益々の発展を望みます。

静岡大学卒業生及び在校生有志 86名